

平成 29 年度「つどい」でのご意見・ご要望について

平成 29 年 8 月 19 日、20 日に開催した「高校奨学生と保護者のつどい」では、当会の事業についていくつかのご意見・ご要望をいただきました。ご意見・ご要望は、主として保護者によるグループ別懇談会の場で頂戴したものです。どのようなご意見・ご要望があったか、その概要を紹介するとともに、それらに対する当会の現時点での考え方をお知らせします。

	事項	ご意見・ご要望の概要	当会の考え方
1	修学支援事業の拡大	返還については、何割かまで返還したら残りは返還免除、というような制度は考えられないか。	<p>当会では、平成 28 年 3 月、第 4 次長期事業計画（平成 28 年度～32 年度）を策定し、以降、同計画の重点項目の一つとして、修学支援事業の拡大（給付事業の拡大と返還免除の拡大）に取り組んでまいりました。</p> <p>給付事業では、平成 27 度下期から実施している家賃補助に加え、上級学校進学受験費用補助（同 29 年度から）、普通自動車第一種運転免許取得費用補助（平成 30 年度から実施予定）を導入しました。</p> <p>返還免除では、平成 29 年度から、①特別支援学校高等部等卒業者および②生活保護受給者を対象とする免除措置を導入しました（①：全額返還免除、②：一部返還免除）。</p> <p>ご指摘のような返還免除が可能かどうか、また、適切かどうか、これまでも、財務状況をにらみつつ検討してきましたが、今後も引き続き検討したいと考えています。</p>
		遠方から通学する奨学生（通学時間 90 分以上）に、家賃補助同様、通学費を補助をしてほしい。	<p>上掲のような新規事業・措置の導入に当たっては、事前に、緊急性、一般性、公平性、また実務的に可能かどうか等について綿密な検討を行っています。</p> <p>ご要望の件につきましても、同様の観点から検討したいと思います。</p>
2	奨学金貸与額の増額	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金の増額を希望。他で借りると、有利子となる。無利子で借りられるとありがたい。 ・交通遺児育英会の奨学金だけではまったく足りない。進学塾も費用がかかる。 	奨学金の増額が可能かどうか、第 4 次長期事業計画推進の中で併せて検討したいと思います。

3	心塾への入塾資格	心塾は、いろいろな奨学生と触れ合うことができる。交流の場としても社会性を養う場としても有益と思うが、都内在住者（自宅から学校に通える者）は入塾することはできないか。	心塾は、（目的1）経済的に困難な状況にある地方の交通遺児が首都圏の大学、大学院、専門学校等へ進学しやすいようにとの配慮から設置されたものですが、当然ながら、（目的2）団体生活による社会性を養う場としても有効です。基金を寄せてくださる支援者の支援趣旨は、目的1のウェイトが大きな割合を占めていると考えますので、都内在住者の入室まで入室資格を拡大するのは現時点で難しいと考えます。ご提案のアイデアを生かす方策として、もちつき大会とか、講座とか、スポーツフェスティバルとか、サマーキャンプとか、いろいろな行事がありますので、それに都内在住者の参加を呼びかけ、交流の輪を広げる等は考える余地があると考えます。
4	心塾の食事	心塾では、3月と8月は「食事なし」だが、できれば「食事あり」にしてほしい。	食事の委託先（会社）を交え、検討します。
5	つどいプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・海外語学研修の体験報告があるといい。 ・心塾について話を聞きたい高校奨学生のための時間があってもいい。 	次回つどいのプログラム作成段階で、ご指摘のようなことが可能かどうか、また、適切かどうか検討したいと思います。
6	育英会広報	<ul style="list-style-type: none"> ・兄がいるが、当時（数年前）は交通遺児育英会のことを知らなかった。 ・育英会の奨学金情報は別の団体のプリントで知った。役所からは教えてもらえなかった。広く知らせることが必要だと思う。 	<p>当会では、現在、次のような広報活動を行っています。このほかに、アイデア、チャンスがありましたらお知らせください。可能な限り広報活動の拡大を図りたいと思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 奨学金案内ポスターの配布。全国の中学校、高校、大学、専修学校、市町村役場、教育委員会、警察署等へ。年2回（春、秋）。春3万部、秋1万6,000部（中学校、高校のみ）。 ② 広報紙「君とつばさ」の配布。奨学生、奨学生OB・OG、寄付者（個人、企業、団体）、マスコミ、有識者、全国の高校、図書館、市町村役場、教育委員会等へ。年5回。各回平均3万4,000部。 ③ AC ジャパンによる支援キャンペーン広告（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、電車中吊り、駅貼り）。2015年7月～2019年6月 ④ 随時、行政や団体のイベント等に参加し、認知度向上に努める。